

第八期 第25回 np.広告学校 講義録

【米村クラス amazon Audible】

◆日時

2016年1月12日

◆出席者

総長、燃えるゴミ、袋とじ、命の母、バクテリア

脇毛舐め、講義録、裏口、我慢汁、疲労骨折、ケツアゴ、ほげ生徒12名

(女性7名・男性9名) + 米村

米村:今日は、この商品がマイナスをゼロにするっていう発想じゃなくて、ゼロをプラスにするっていう新しいマーケットを作る魅力的な商品になる可能性を、なんかとか見つけられないと思う。まずは、ひとり1,2分で、ストラテジーをプレゼンテーションしてもらって、そのあと考えていこうかな。発表したものは貼っていこうか。

袋とじ:はい。まず、私のストラテジーです。

【袋とじのストラテジー】

競争を、知識を定着させるための、あらゆる読書術にしました。

ターゲットは、読書はしても、一回読んだっきりになっている人、

インサイトが、読書で効率良くインプットしたいけど、再読をするんだったら、新しい本を読みたい。

USPが、音楽を聴くような手軽さ。読書よりもかかる時間が低時間にもかかわらず、再読によって知識の定着率がアップする。

プロポジションは、数年後、その知識がゼロになる前に、Audibleで効率よく、知識を定着させましょう、です。

米村:これは同じものを何回も読ませるとのこと？

袋とじ:そうです。

米村:Audibleである必要性はなに？

袋とじ:聞き流せる手軽さ。復習って、トイレしながらとか、お風呂入りながらとか

「ながら」が効率がいいって聞いたことがあって。

米村:お風呂入りながらと、いわゆる「ながら」はちょっと意味が違う気がするけどね。

俺、Podcastをよく聞いてんだけど、なんか、それ聞きながら他のことに気をとられたりしたら、やっぱり集中できない。今の所ちゃんと聞いてなかったって戻したり、聞き直したりするんだけど。

お風呂入りながらとか、電車乗りながらとか、ジョギングしながらっていうのはできるけど、聞き流すっていうこととは、意味が違うので。

袋とじ:本を読むのだと、再読のハードルが上がるっていう風を感じたんですけど、Audibleの方が気軽にできる感じがして。

米村:だとしたらそれ別に、再読っていうことに関係ないじゃん。最初に、本だってなんだって、活字を読むより、ハードルが低いってことですよ。そのことと、再読っていうのは、別の話じゃない？
なんで再読に限定するんだろう？

袋とじ:一回本を読んだから、聞き流しても、こう記憶に残りやすいんじゃないかなって思って。

米村:本で見たって一緒だと思うけど。斜め読みでも、右上に書いてあることを読んで、ここのページに書いてあることを思い出せたら、斜めに読んじゃうと思うけど。むしろ、Audibleのほうが時間の省略化ってできないと思うよ。

袋とじ: 次はカワハギです。

【カワハギのストラテジー】

ターゲットが、一人暮らししている社会人男性で、

ターゲットインサイトは、家事をするのは面倒だが、そのままにしておくのは気分が優れない。

USPは、耳で朗読を聞くオーディオコンテンツ＝両手や耳が拘束されない。

プロポジションは、あなたの家の「家事本」Audibleで聞いて、家事を楽しく片付けましょう。

家事本とは、家事をするときに読みたい本。好きな本を聞くことで、自分を鼓舞し、家事をするパワーに繋げる。

短時間で読み終わる本をタイマー代わりにする。一語一句を漏らさず聞くという使い方ではなく、好きな本を何度も聞くという使い方を想定しています。

米村:家事本で、一般的な言い方としてあるの？これ彼が、自分で作ったのかな？

講義録: そうだと思います。

袋とじ:初めて聞きました。

講義録:定義付けしているので、多分。そうだと思います。

袋とじ:次、結婚相談所です。

【結婚相談所のストラテジー】

ターゲットが、ビジネスパーソン、学生。

インサイトが、自分の教養を高めたい、何か新しく学びたい、何かにチャレンジしたい。

USP は、聞くだけなので、いつでもどこでも、無理なく読書できる。月 1500 円の定額制なので、大量の読書に向いている。

プロポジションは、聴書マラソンで、1 年間に 100 冊の読書を目指しませんか。1 週間で 2 冊。

1500×12=18000 円で 100 冊分。1 冊あたり 180 円

競合商品を、ユーキャン等の通信教育などですかね。習い事に設定しています。

次に、おしめりおねえさんのストラテジーが、

【おしめりおねえさんのストラテジー】

ターゲットは、ビジネスパーソン、学生。

ターゲットインサイトは、アウトプットのためにもっと本を読みたいが時間がない。

競合は、教室や howto 本などの速読術です。

USP は、身につけなくても、3 倍速で読破できるで、

プロポジションは、超高速読書を可能にする Audible で、ビジネス書から小説まで、情報を思いのままにインプットしよう、です。以上です。

米村:じゃあちょっと貼っというて。

バクテリア:

【バクテリアのストラテジー】

ターゲットは、読書が好きな読書家で、

インサイトは、いつでもどこでも思い立ったときに本を読みたい、

競合が、電子書籍とか、紙の本で、

USP は、アプリさえダウンロードしていれば、1 万冊の本がいつでもどこでも聞き放題、本を聞くことができるので、手と目が解放されるというところです。

プロポジションは、Audible をダウンロードすれば、暗闇の帰り道や、風景を楽しむ旅行中など、いつでもどこでも、その時読みたい本を楽しめます、にしました。

米村:本の読み方って、複数の本を同時に並行して読む人っている？何冊くらいの本読む？

バクテリア:2冊くらい。

米村:何で同時に進むの？

バクテリア:その時は、気分気分で、コメディ読みたい日とか、気分が違うので、気分が乗った方を、読み進めてます。

脇毛なめ:2,3冊読んでるんですけど、集中力切れたら違う方読んで、集中力を保つというか。

米村:でも、多分新聞とかも読んでるでしょ？

脇毛なめ:読んでます。

米村:2,3冊の本ぶらす新聞とか、雑誌とかも？

脇毛なめ:そうですね。

米村:web ニュースとかも読んでるよね？結構いろんなものを並行してやるんだ。

脇毛なめ:確かにそうですね。

米村:みんなそう？そんな感じ？

総長:1週間に5,6冊くらい。

米村:この物語、どうなるんだろうとか、そういうのはないのかな？

総長:あ〜小説だったら一気に読んじゃうかもしれないですけど。

米村:もうすこしある?ビジネス書だったり、いろんなものがあったりするから?

総長:朝と帰りで読みたい本が違ったりするから、2,3冊持ち歩いてます。

米村:1日に3冊読むってこと?ずっと持ち続けてんだ。1冊だったら、持ち運ぶの1冊だから楽ってことにはならないんだ?

総長:朝読んだ本と、移動の時は、違う本を読みたい。

米村:そういう見方があるんだ。

ケツアゴ:先ほど、先生がおっしゃっていたことだと思うんですけど、マイナスをゼロにじゃなくて、ゼロをプラスにする戦略っていうのと、新しいサービスってことで、あまりニッチにならないように、考えました。

【ケツアゴの戦略】

ターゲットは、読書に対する思い入れはあっても、なかなか習慣化できない人。本を読みきった経験が少ない人。なんとなく読書やった方がいいってわかりつつも、できない人になります。

インサイトは、読書の魅力っていうのがそもそもわかったことがない、活字を目の前にすると、どうしても眠くなってしまう。

競合は、紙の書籍、電子書籍。USPは、ハンズフリー、聞くだけっていうことです。

プロポジションは、五感を使えば、物語を読解、没入しやすい。Audibleなら、活字嫌いなあなたでも、読書の醍醐味、つまり物語を読解、没入することっていうのを味わえますっていうことです。

米村:ほぼ、本読まない人っている?いないか。

ケツアゴ:一応、なんか調べてたら、何千人かにアンケートとったので、1000人中、月に全く読まない人が40パーセントくらいいて、1,2冊読む人が、次に多くて、2,30パーセントくらいだったので、ほとんどの人が全く読まないか、1冊読むか、みたいな。感じだと思いました。

米村:その理由は?そこには書いてなかった?

ケツアゴ:理由は、なかったですね。

ほげ:

【ほげのストラテジー】

僕はターゲットを読書好きな人にして、

ターゲットインサイトを、作品に十二分に浸かりたい、もっと読書を楽しみ尽くしたいにしました。

競合としては、紙の本、電子書籍にして、

USP は、音による演出というのと、受動的な読書体験にしました。

プロポジションは、臨場感や情感たっぷりの音声で、あなたの作品の作品に満足に浸らせませす、ということにしました。

もうひとつが、

ターゲットが、同じく読書好きな人なんですけど、

今度はインサイトとしては、もっと本を読みたい、と思っているひとで、

競合は、同じく、紙の本、電子書籍です。

USP は、紙の本や電子書籍と違って、何冊でも本を持ち運べて、イヤホンだけで楽しめるってところです。

ただ、プロポジションは、日常生活に読書を溶け込ませましょう。その作品を聴く度に、日常生活での思い出が蘇りますっていうのにしました。

米村:どこでも持ち運べるのは、電子書籍と一緒になんじゃないの。

ほげ:はい。紙の本と比べて。

米村:紙の本も持ち運べるじゃん。

ほげ:たかさんの、っていう意味で。

米村:量の話ね。そういえば、AUDIBLE ってサウンドエフェクトとか、結構入ってんの？ ささーっとか。

我慢汁:入ってないと思いますけど。

講義録:『アメニモマケズ』が結構入ってたかもしれないです。

ほげ:童話とかだと結構、読んでる人の声が違ったり、SEが入ってたり。

裏口:続いて裏口です。

【裏口のストラテジー】

ターゲットを、通勤・通学する人にしました。

インサイトは、通勤、通学の途中はいつも同じで退屈だ。

USP は、1 万以上のタイトルを、聞くだけで楽しめる。

競合は、音楽定額配信サービスです。

プロポジションは、いつもと同じ道で、毎日違う発見をしませんか。というものにしました。

なんか、通勤通学の道っていつも同じだなんていうのが当たり前になってると思うんですけど、そこで、何か違う発見ができる体験ですっていうのを伝えたいと思いました。

米村:通勤通学をする人っていうのに、何の意味があるの。

裏口:毎日同じ道を通る人っていう意味で。なんかその道って、なんだか退屈だなんて思いつつも、毎日同じ道を繰り返してるって思って。

米村:通勤通学の時、結構みんな本読んだりしてるじゃない？

裏口:電車に乗ってる時だったらあると思うんですけど、例えば、最寄り駅から家まで、徒歩 10 分あるとか、家から会社まで 5 分歩くとか。その道って、意外と退屈なんじゃないかなって。

米村:通学とか、通勤とかの時間の大半は、交通手段に乗ってる時間の方が長かったりするじゃない？例えば、家から駅までの 5 分間のために本を読みたいっていう人はいなくはないと思うんだけど、そこで聴く人って電車に乗ってても聴くと思うんだよね。

裏口:はい。そうですね。通勤のあるくタイミングというところっていうのを入り口にしながら、通勤通学の道で、Audible を楽しんでもらえればと思って、電車の中の時間にフォーカスしちゃうと、満員電車の中で、本が読めないとかっていうマイナスをゼロにしちゃうものにしかならないかなって思ったので。もうすこしプラスのもので考えてみたっていう感じです。

米村:それは、でも、通勤、通学以外の人でも、たとえば専業主婦とか同じようなインサイトはないんだろうか。例えば、毎日の洗濯をしている時間など。毎日毎日めまぐるしく違うことが訪れる人って少なく、ほとんどの人が毎日同じことを繰り返してると思うから、そこにターゲットの標準をあてることはできないだろうか。

裏口:主婦はテレビが大きな競合として、毎日違った情報を届けてもらえるかなって。通勤通学の人たちって、毎日代わり映えしない毎日だなんていうのを、どこで感じているのかなってということと、やはり小説、ビジネス書籍との親和性が高いのではないかなっていうのがありました。

米村:うん。じゃあ、あともうひとつ。同じ道で違う小説読んだら、同じ道が違う風景に見えるかね。

裏口:違う風景。。道がですか？ビジネス書籍だと思わないかな。

米村:じゃあ、村上春樹読んでたらなんとなく、こんな感じに見えるけれども、明日は、全然違う推理小説読んだら、怖い道に見えるとか、そういうことになるかな？

裏口:ひょっとしたらあるかもしれません。僕が思ってたのは、なんかその、ビジネスにおいて新しい知識が加わったなとか、こういうものの言い回しって面白いなっていうことの発見とかを意識してました。

米村:だったら、道とか風景とか、関係ないんじゃないの。

裏口:そうですね、同じですね。

我慢汁:我慢汁です。

【我慢汁のストラテジー】

我慢汁:競合は、一般書籍、電子書籍で、USP は、手と視界が自由になることで、加えて、読む空間・行動も自由になる。

ターゲットは、米村さんからのメールで、普通の人がこの新しい読書体験を享受できるように、っていうのがあったので、ターゲットはないようなものなんですけど、一応、トレンドに敏感な、新しい物好きの人にしまして、

インサイトは、文字を凝視する読書は、閉鎖的で不自由で、なんだか堅苦しいという風にしました。読書が苦手な人っていうのは、活字が苦手で読めないっていうことだと思うんですけど、普段、本読む人でも、その日の気分で、文字に向かい合うのが辛い時っていうか、堅苦しいっていうか、僕も普段本を読むんですけど、そういう気分になることがあるので、堅苦しさをっていうのをインサイトにおいて、プロポジションが、どこで何をしながら、何を見ながら聞かかはあなた次第。そんな自由で解放的でアクティブな読書体験を楽しみませんか、というふうにしました。

米村:うん。みんな、僕は講評するっていうよりかは、質問してるつもりなので、みんなも疑問点など、もっと質問して。今日は、みんなのアイデアの中のどこかにストラテジーの芯となりえる可能性はないかっていうことを考える場なので、そういうつもりで。

【燃えるゴミのストラテジー】

燃えるゴミ:燃えるゴミです。私はターゲットを、運動を習慣づけようとしている人、
インサイトは、毎日運動したい、でもさぼってしまう、
USP は、続きが気になる様々な本があるということです。
プロポジションは、毎日のウォーキングに読書の楽しみを加えて、やる気アップしませんか、としました。

米村:にんじんにするっていうこと？

燃えるゴミ:にんじん？

米村:こうやってここに本があるから、歩こうとかそういうことでしょ？

燃えるゴミ:あ、そういうことです。

【総長のストラテジー】

総長:今、話に上がったように、気分を変えたいっていうのがあると思って、朝読みたいの、帰り読みたいのって分けたんじゃないかなって思って、ターゲットを、読書が好きな人、本がいつもカバンに入っているような人にしました。

インサイトは、気分によって読む本を変えたいけど、何冊も本を持ち歩くのは重くて大変とか、移動中も読みたかったりとかっていうのにしました。USP は、オーディオブックなので、持ち歩き簡単で、耳から読書できる。1万タイトル収録されていること。競合は FEBE などのオーディオブックとか、ちょっと kindle もはいるのかなって思いました。ただ、FEBE は、本単位で買うので、Audible は月額制なので、ちょっとそこは違うかなと思いつつながら。

プロポジションは、あなたのスマホを本棚に、月額 1500 円で 1 万冊を持ちあるこう、にしました。

【命の母のストラテジー】

命の母:ターゲットは、学生や社会人。

インサイトは、知的な大人になりたい、知的な人だと思われたい。

競合が、本・電子書籍。USP が、聴いた本のデータを自動記録し、SNS と連動させることができる。

プロポジションとしては、オーディブルは、忙しくても耳フリーな時間を有効利用して「知性磨き」ができるツール。読書記録は、SNS でシェアすることで、友達と楽しみながら読書のモチベーションアップができます、です。

米村:どっちが大事なの？ふたつあるけど。

命の母:そうですね。記録するのと。

米村:記録すること？SNS の方？知性を磨きたいっていう方？

命の母:プロポジションのですね。そうですね、2つあることになっちゃう。さっき、結婚相談所の案で、ユーキャンの案が出てきたと思うんですけど、勉強してるとか、知的になってるっていう満足感が大事だと思うので、本でもできるんですけど、これはこう、記録される。っていうことに意味があると思うんですが。

米村:記録されるって、どういうことになるの？

命の母:昨日は何分 Audible を聞きましたとか、今月は何冊の本を読破しましたっていうのが、アプリとかで出るんですよね。

米村:紙の本だったら、読んだ本が溜まっていくよね？

命の母:紙の本だったら、そうかもしれないんですけど、私は、人から借りたりとか、図書館で借りたりとか、わざわざ読書記録票は作らないけど、昨日は何時間も読んだとか、ていうのを、自分で記録されているのを見て、ああ読書の習慣がついているなって思うのは、そういう充実感みたいなのがあったので、読書の充実感がデータ化されるっていうのは、新しいかなって。

米村:だけど本なんてさ、もうはてしなく、どんどん出てくるじゃない。まあでも、万歩計と同じか。

命の母:で、あと、ナイキとかのランをして、SNS とかにアップしてるって感じっていうのを、読書でできるかなって。

ケツアゴ:いま、読書記録専用の SNS ってあって、そういうことしたい人って、結構いるのかなって思いました。

講義録:「読書メーター」っていうのありますよね。

ケツアゴ:あと、「スタンド」とか。

命の母:それ自分でいれるんですか？

ケツアゴ:自分で書評っぽいことを軽く付け加えて。読書好きな奴のことをフォローして、ひろげるみたいな。

講義録:流行ってるんですか？盛り上がってるんですか？

ケツアゴ:わかんない。おもしろいなと思って落とすくらいなんだけど。

米村:知識が溜まってなかったら意味ない感じもするけどね。

バクテリア:そっちに意識がいっちゃって。確かに。私も陥りました。

米村:ジョギングとかは、自分の体に溜まっていく感じはあるけど。

命の母:流したまま寝ちゃってたらあれですけど、なんとなく聞いてると、溜まるかなっていう気が。

米村:中身にもよるじゃない？

命の母:ああ。

米村:冊数を稼ぐがために、中身のうすい本を、とか。そのモチベーションと、どれくらいのリンクがあるのかっていうのが、ちょっと。不思議な感覚だなって。

命の母:年が明けると、今年は読書いっぱいするぞって思ったりする人って、結構いると思うんですけど、読書が趣味で、本当に読書の習慣がついている人の、ちょっと前段階なのかもしれないんですけど、そういう人の入り口になってほしいなっていうのがあるのかもしれないです。

【脇毛なめのストラテジー】

脇毛なめ:僕は、競合を、2週目の読書、読み返しとしました。

ターゲットを、普段読書をする人として、

インサイトを、本を読んでいるが、ちゃんと身につけているか疑問を感じている、

USPは無意識の読み飛ばしができない。

プロポジションは、読書は、興味関心が薄いところを無意識に読み飛ばす、知識習得の機会損失があります。読み落としていた部分をオーディブルで「聞き拾い」して理解を深めたり、新たな気づきを得ませんか？

米村:聞き逃しは？

脇毛なめ:僕もそれはちょっと思いましたけど。

米村:聞き逃しの方が、手のほどこしようがないよ。読み落としてなんか、とはいえ、ここにあったりするじゃない？

聞き逃して、本当に、闇の彼方だからさ。

脇毛なめ:例えばストーリーとかで、聞き逃しもある。話自体が分からない、読書自体が成立しないっていうことで、ある意味、それを裏返したら、ちゃんと聞かないと理解できないっていうのが、強みかなって思ったんですよね。本は、読み飛ばしても、なんとなくそのままいけるんじゃないかなって、思ったんですけど。

米村:だったら、最初からそう書けばいいじゃん。

脇毛なめ:競合を本として・・・

米村:どうしてそんなややこしこと。彼女(袋とじ)のもだけど。

脇毛なめ:そうですね。なるほど。

【疲労骨折のストラテジー】

疲労骨折:ターゲットが、本を持ち歩く習慣のある人で、

インサイトが、結局満足には読書ができず、持ち歩くだけで終わってしまう時がある、としました。
USP は耳でできる読書、ハンズフリーやアイズフリー、プロポジションは、オーディブルが読書を拒
ませないことに成功しました。競合は、紙の本です。

もうひとつあって、ターゲットは、欲しい本を立ち読みして選ぶ人。

インサイトは欲しい本を立ち読みして探すことが多いけど、煩わしさと時間の消費が激しい、と。

USP は、月額 1500 円で読み放題、場所時間環境を選ばず使用できる。

プロポジションは、本をいつでもどこでも立ち読める、ウィンドリーディングができます。

米村:電子書籍とかも、立ち読みっていうか、試し読みできるよね？

疲労骨折:そうですね。

米村:こっちの方が、なんかいいことあるんだっけ。冊数が圧倒的に多いとか？

疲労骨折:ハンズフリーとかは Kindle ではできないので、より場所時間・・・

米村:だったらハンズフリーが大事ってことになるよ、USP で。

疲労骨折:そうですね。そっちもはってきますね。

米村:それもっていうんじゃなくて、どっちなんだろう。フォーカスポイントは。

疲労骨折:そうですね。ハンズフリーがいちばんの USP だと思います。

米村:そしたら、その前後が変わってくるよね。

疲労骨折:変わってきちゃいますね。

米村:しかもストラテジー、AB と大差ないよね？

疲労骨折:ああ。なるほど。

【講義録のストラテジー】

講義録:自分は競合を本としています。

で、本に、変わるものとして、Audible をずっと考えてたんですけど、どう考えても、勝てないなあって思ったので、どちかという、本の二次創作だったり、本に代わる、新時代のものが Audible であるっていう売り出し方にしたいなって思うようになりました。それで、本で、そもそもなんであるのかって考えた時に、本が生まれたのって、物語ってこう、口で伝えて、伝染して広がってたと思うんですけど。背景にあるのが、文字をかける人が少なかったからだったらしいんですね。読み書きができる人が増えていったから、本が普及して行って、今に至っているというのがあるらしくて、なんで本が普及したかかっていったら、伝達する方法が紙しかなかったかららしいので、でも、今、別に紙じゃなくても伝達できる、その新しい手段が Audible だ、みたいなものにしたいなって思っています。

そういうコンセプトで、ターゲットは、本を読みたいと思っているが読むのが苦手な人、

インサイトは、本は文字だけなので、面白くなく、集中して読むことができない。

USP は、文字ではなく、人の言葉で伝える。より原始的で直感的な伝達方法。

プロポジションは、記録に人の魂を吹き込み、再生する、それが Audible です。、っていうものにしてます。

米村:総長、つっこみをいれてください。

総長:退化してるのかなって思ったんだけど。

講義録:あえて退化させてるっていうのはありますね。元に戻らせてるっていう感覚ですね。本来あるべき姿に戻らせてるっていう。

総長:あえて退化させてるのは直感的に聞かせるために？

講義録:そこは多分、ターゲットを本が読むのが苦手な人っていうのにして、この理由を、自分は、本を読むのを集中して読めないっていうのはあるんじゃないかなって思って、なんでよむのが出来ないのかっていうと、慣れてないからだって、思ったんですね。で、じゃあ、一般的に世の中の人慣れてることっていったら、人と話すことかなって、人の言葉なのかなって思って。

米村:本を読むのが苦手なのは、慣れてないから？

講義録:そうですね。普段、人の話って聴くけど、本ってあまり慣れてないので、人の話だったら、すぐ入ってくる、とか。本読みながら、周りの話が入ってきて、集中力途切れるとか、っていうのもあるんじゃないか

なって思って、じゃあ人の声だったら集中力続くんじゃないかって思ったりして、こういうストラテジーにしました。でも答えになってないですね？退化させるのかっていう。

総長:なんか、校長先生の話とか寝ちゃわない？声が集中できるっていうのが・・・。

講義録:本を読みたいと思ってるけどなかなか続かないみたいな。

総長:読みたいっていう気持ちはあるっていうこと？

講義録:そうです。ここ仮説ですけど。

米村:本を読みたいと思ってるけど、活字だと続かないっていう人、連れてきてほしい。

講義録:そうですね、そこは実証してみないとわからないですけど。

米村:じゃあちょっと8時まで、これを眺めて、自分がこのあたり可能性あるんじゃないかっていうのを探してくれる？

A案 ⑥

ターゲット: 通勤中のビジネスマン

インサイト: 通勤カテゴリーで本と読み始め(こいつが)様々な要因により、挫折している。

競合: 本。

USP: ハンドフリー。

プロポジション: 聴きながらストレスフリーで通勤カテゴリーに楽しめる。

⑥

B案

競合: 電子書籍

ターゲット: 老眼・目の不自由な人。



インサイト: 目が悪くて、細かい字とよむのが
~~苦手~~辛いから、本は読みにくい。

USP: 目で使わず、耳で内容を聴く。

プロポジション: 目が悪くても、読書体験
と堪能できる。

米村: 一回そろそろ着席を。順番に、このAとBよりも可能性が大きいと思うものはありません、っていうのも含めて、聞いてみようか。

袋とじ: はい、お願いします。

バクテリア: 私は、結婚相談所さんのストラテジーが、面白くなっている風に思って。1年間に100冊読書を目指しませんかっていうのが、個人的に心に刺さったっていうのが大きんですけど、新しいツールを使う時って、何か新しいことを始めるっていうをっていうきっかけがないと、難しいと思うので、か

目標を持った人をターゲットにしたら、Audible 使ってくれるんじゃないかなって、思いました。

np広告学校 米村クラス		2016/1/12 結婚相談所
課題: Audible		結婚相談所
ターゲット	ビジネスパーソン、学生。	
インサイト	自分の教養を高めたい。何かを新しく学びたい。何かにチャレンジしたい。	
USP	聴くだけなので、いつ、どんなところでも無理なく読書できる。月1500円の定額制なので、大量の読書に向いている。	
Proposition	読書マラソンで、1年間に100冊の読書を目指しませんか。 (1週間で2冊。1500×12=18000円で100冊分。1冊あたり180円)	
競合製品	ユーキャン等の習い事。	

米村:この「1冊180円」は、本をすごく読む人にとっては安いなって思う？

バクテリア:安そう。

米村:図書館とかに比べたらわからないけど、1冊180円で読めるんだっていうのと1年間で100冊目指そうっていう話はちょっと発見があるかなって思ったけど。

講義録:僕、そこちょっと疑問があるんですけど、今まで何十年で、本好きな方って、自分の読み方を構築してきている中で、価格で変えられるかっていうところはあるのかなって思いました。自分なりの本の読み方だったり、あるなかで、そこに対して、180円だから買いましょうって言って、変わるかなって。

米村:でも、これに切り替えた途端に、読むことをやめるとは思わないんだよね。本が本当に好きな人って、活字で読みたい本と、活字で読めない時間帯 Audible で聞く本を使い分けるのでは。

講義録:本と Audible っていう、共存する感じですね。

ケツアゴ:A案B案ってあるところで、本を読む人の中の一部に刺していこうっていうことだとおもうんですけど、本を読まないところにも、せっかくだから、新しいサービスなので、取りに行けたらいいなって、思いました。そういう時に、結婚相談所さんのものと、我慢汁さんのものがいって思いました。

我慢汁 ●Audible ストラテジー

改定
C案

■競合
一般書籍・電子書籍

■USP
手と視界が自由になることで、読む空間・行動も自由になる。

■コミュニケーションターゲット
トレンドに敏感な、新しいモノ好きの人

■ターゲットインサイト
文字を凝視する読書は、閉鎖的で不自由で、なんだか堅苦しい。

■プロポジション
どこで、何をしながら、何を見ながら聴くかはあなた次第。
そんな、自由で開放的でアクティブな読書体験を楽しみませんか？

米村:我慢汁のどこが？

ケツアゴ:ターゲットが、トレンドに敏感な新しいもの好きな人ってところで、その欧米だとある程度の規模でやっているものが日本に上陸するっていう、新しいものに惹かれるっていうのが。

米村:文字を凝視する読書は、閉鎖的で不自由で、なんだか堅苦しいっていうのが、インサイトとしてあると思う？

ケツアゴ:読書っていうのが、古いものだって、思っただけですね。今更、読書始めるっていうことをやりたいて思わないかなって。読書の知的な部分には、魅力を感じていても。文字を追うっていうことに時間を割きたくないなっていう人はいるんじゃないかなって。

ほげ:僕も、我慢汁さんの案があるかなって思いました。

米村:どのポイントが？

ほげ:プロポジションの、どこで、何を見ながら聞くかはあなた次第っていうところが。

読書っていうのは、これまで場所を選んで仰々しくやんなきゃいけない、堅苦しい感じだったのが、もっとカジュアルな感じの、行動っていうか、アクションになるのかなって思いました。

米村:文字を凝視する読書は堅苦しい？

我慢汁:文字を凝視しないといけないからそうなるってことですね。文字を凝視するっていうことにすべて奪われるので。

裏口:僕は、ほげくんとか、総長とか、本好きな人がもっと本を読みたいんだけど、時間が足りないっていう気持ちに応えるアイテムっていうのが、ポジティブな聞こえがしていいなって思ったんですよ。

Audibele ストラテジー ほげ案

ほげ案

ターゲット
読書好きな人

ターゲットインサイト
もっと本を読みたい。

競合
紙の本、電子書籍

USP
何冊でも持ち運べて、イヤホンだけで楽しめる。

プロポジション
日常生活に読書を溶け込ませましょう。
その作品を聴くたびに、日常生活での思い出が蘇ります。

裏口:ていうのがひとつと、あと、おしめりおねえさんの、「速読」「3倍速」っていうのがいいと思うんですよ。前回Bチームとして集まった時も、話として出たんですが、まあほんと、3倍っていうのを実際聞いてみると、聞き取りにくいものだったりして、でも、1週間以上聞いていると耳が慣れてくるのかなって。なんか各々の処理速度が上がってて、自分にポジティブな効果が起きてるんじゃないかっていうのもあったんですけど、果たしてそれがワクワクするものになりえるのかっていうのを、みんなで考えたいなって、思いました。

np.school 8期 米村クラス

2016/01/12 おしめり



本やオーディオエンターテインメントをアプリで自由に聴く
アマゾンの新しいサービス

- ターゲット
ビジネパーソン、大学生
- ターゲットインサイト
アウトプットのためにもっと本を読みたいが時間がない。
- 競合
速読術（教室、How-to本）
- USP
身につけなくても3倍速で読破できる。
- プロポジション
超高速読書を可能にするAudibleで、ビジネス書から小説まで情報を思いのままにインプットしよう。

おしめり

米村:総長は結構、読書家なの？

総長:本好きですね。

米村:今のペースよりも増やせないのはなんでなの？

総長:読む速度ですかね。

米村:読書に割く時間を今以上に見つけられないってことだね。その時間が見つかったら、もと読みたいって感じはあるの？

総長:おしめりおねえさんのみみたいな、速読とかだと楽しいとか、自分の知識みたいな感じは薄まるのかなって思いました。たくさん読んでも読みきったことに満足しちゃって、内容があまり入ってこなさそうだなって。Audible ここ一ヶ月くらい使ってるんですけど聞かなきゃって思わないと聞けない。

米村:内容によらないかね? ビジネス書だったり、資料として読まなきゃいけない本だったら3倍くらいで入ってきた方がいいってことない? 我慢汁は?

我慢汁:僕は、バクテリアの案が、いいのではないかなと思いました。

Audibleストラテジー・C案 (バクテリア)

ターゲット: 読書家

インサイト: いつでもどこでも、思い立った時に本を読みたい

競合: 電子書籍、紙の本

USP: アプリさえDLしていれば、1万冊の本が聞き放題
本を「聴く」ことができるので、手と目が解放される

プロポジション: Audibleを使用すると、暗闇の帰り道や、風景を楽しむ旅行中など、いつでもどこでも、その時読みたい本を楽しめます。

米村:どこが?

我慢汁:読書好きとか、ターゲットをせばめない方がいいんじゃないかなっていうところで、一番素直で幅広い人を取り込めるんじゃないかなって思いました。

米村:燃えるゴミは?

燃えるゴミ:はい。私は、結婚相談所さんのインサイトが、新しいことにチャレンジしたいっていうのがあって思ってる。

米村: チャレンジの候補になることっていろんなことがあるからね。まあ、これもその一つってということかな。

総長は？

総長: 私も結婚相談所のがいいと思ったんですけど、100冊っていうところより1冊180円ってところが。

月々1500円とかだと本好きだったり、興味ないと払えないと思うんですよ。iMusicとかも月980円でも音楽好きだから聞くとかモチベーションがあるので。もう一個気になったのが、本を楽しみ尽くしたいということ。本を読みながら耳でも聞いてもっと没入できるのかなって。小学校の時の音読みたいな。

米村: それ相当本が好きな人のマニアックな楽しみ方だね。

総長: そうですね。それなら1500円払うかなって。

米村: 母は。

命の母: はい。いつでも読めることとか、もっと読めることって真ん中になってくるんだらうって思ったんですけど、それはちょっとA案でカバーできることなのかなって、時間を有効活用出来る、空き時間を楽しめるって考えた時に、私も結婚相談所さんは、いいなと思いました。特に、私が考えなかったところは、競合をユーキャン、通信教育にしたところ。通信教育を始める時って自分の知識欲とか、自分を高めてくれるコンテンツがたくさん用意されてると思うんですけど、そのひとつとしてユーキャンが読書っていうのをやった場合、月に1500円って、それだけはらってるんだからもっと聞こう、もっと続けようみたいな囲い込みになると思っています。そういう持っていく方として知識欲をくすぐるっていうのはあるかなって。

米村: 結婚相談所の、競合をユーキャンにしてるから、1冊180円っていうのはサブ的要素だよな。100冊読書できるっていうことが彼のストラテジーのメリット。総長も言ってたけど、180円っていうコスパが、なるほどってちょっと思ったことだったけど、それはまたストラテジーとはちょっと違うポイント。

脇毛なめ: 今、命の母が言ってところとかぶるんですけど、ユーキャンではなくて、本とか音楽とかを競合とおいた時と通信教育っていうのをおいた時だと、Audibleの手の届きやすさが、通信教育より近づくのかなって思いました。普段そんなに本読まない人だとしてもユーキャンとかと同じものとおくと、ちょっといいかもと。

米村: これがいいということ？

脇毛なめ:そうですね。ちょっといいかも、やってみようかなっていう風な気持ちになると感じました。あと僕が勘違いしてたんですが、総長のやつもいいと思ったんですけど、一万冊を持ち歩こうっていうとこだと、kindleと変わらないかなって思ったんですけど、あれ買わなきゃいけないじゃないですか。となると、一万冊っていうのは FEBE も買わなきゃならないんで強い押しになるんじゃないかなと感じました。

米村:それ、正確に言うと、一万冊持ちあることに価値があるんじゃないかと、やっぱコスパだよね？読み放題っていうことでしょ？一万冊持ってたいってことじゃないよね？音楽、「1000 曲をポケットに」っていうのと、ちょっと意味が違うと思うけど。

脇毛なめ:持ってることに安心感を覚えそうですね。

米村:いつでも図書館にいるような気分？

脇毛なめ:そうですね。蓋を開けてみたら全然、数は読んでないみたい。

米村:どこでも図書館みたいな感じかな。それって本好きな人にとったら幸せなことなのかな？

脇毛なめ:持ってる安心感っていうのはあるかもしれないですね。

疲労骨折:僕は今、米村さんがおっしゃったように、読みたい本がすぐばってだせるっていうのがいいなと思ったのと、自分のなかのインサイトとして、そうかもと思ったのが、総長さんのインサイトに書いてある、気分によって読み替えたいっていうこと。朝と帰る時には違う本読みたいとか。

米村:続きよみたいになっていうことはない？俺は、帰りに続き読みたくてしょうがないけど。

疲労骨折:それに気分が勝っちゃうタイプなので。

講義録:ぼくはカパ子の②ですね。インサイトが、自分もそうだなって。

本読んですぐに体験できればいいのいっていうところがあって、好きな作家の本だったら、声まで聞きたくなるかなっていう。自分もなんか好きな作家さんが youtube で話しているのを見て、ああそうだなあって思うことがあるので。

米村:旅行行ったりなんかする時、事前に調べたりすることと同じだね？でも本の中に書いてあることって、実際どのくらい追体験できるんだろう。

講義録: 追体験っていう考え方だとまた違うかもしれないんですけど、いっかい読んで、声も聞きたいみたいな。インサイトは、あるなって思いました。

米村: この場合は、本の中でえがかれているところに実際に行くとか、そういうことをいつてんじゃないの？

講義録: あ〜。ちょっと僕、勘違いしてました。ごめんなさい。

袋とじ: 私は、総長のインサイトがいいんじゃないかなと思います。さっき、疲労骨折が言ったように朝は簡単な読みやすいもので、集中力の高まっている時は、ちょっと難しめの本を。

米村: いっぱい本持ってて、選べるっていうのがいいってことか。

袋とじ: 音楽もそうやって聞き分けるなっていう風に思いました。

米村: 俺もきょうは一個だけ仮説考えてみた。B案と少し近いんだけど、今みんな、スマホでラインやったりゲームやったり、本好きな人は本読んだり、会社行ってもパソコンやったりで、目、大変じゃない。だから、パソコン用の眼鏡が大ヒットしているし。だから、本を読む為に目を休めたらどうかっていうプロポジションはどうか。目が不自由な人とか、老眼の人って、限定しないで。昔に比べて、活字離れとか言うけど今の時代もよっぽど字読んでもよっていうのがあってき。ツイッターとかラインとかフェイスブックとか。だから、「読書する時くらい目を休めませんか」というアプローチ。目の負担を、耳が肩代わりしてあげるっていう仮説はどうかねって思ったんだけど。総長とかが、目全然疲れてません、って言うなら的外れかもしれないけど。

総長: 目が疲れて、やめよ今日は。そういう時あるので、あるかもしれないですね。

米村: むかし、俺が、仲畑貴志さんの好きなコピーで、TOTOの企業広告で、「『人間は、全員疲れているのだ』と仮定する。」というのがあって、TOTOの製品づくりの基本姿勢を端的に表現した名作だけど、『人間は、全員疲れているのだ』という切り取り方が、時代感とすばらしくマッチしてるなって感心した記憶がある。目が疲れるっていう言い方はするけど、耳が疲れてるって、あまり言わないじゃない。総長のその読書量が、全部耳から入ってきたら、相当目が休まるんじゃないかな。あるいはラインとか、ゲームとかFacebookとかTwitterとかに集中できるんじゃないかな。

まあ、もちろん老眼の人とか、目が不自由な人にとっても、わかりやすいニーズだけどふつうの人も目が疲れてる。

講義録:仮にインサイトが目が疲れている人だとしたら、ターゲットはどうなりますか？

米村:みんな。文字を読める人みんな。

講義録:だとすると、目が見つかるなあって思ってるってことですか？みなさん、ありますか？僕はあまりわからないんですけど。

脇毛なめ:めっちゃある。

講義録:ありますか。そうなんだ。

脇毛なめ:会社の帰りとか、目が疲れてるからラジオに変えたりする。

米村:お前（講義録）、全然本読んでないんじゃないの。(笑)

講義録:そうか。僕、目つけられるけど、コンタクト外したら回復するというか。

命の母:若いからだなー。

米村:俺は朝、電車で、会社来る時は、スマホで新聞読んでるのね。帰りは、podcastで、ラジオを聞いてるんだけど、それはもうね、読みたくないから。だから帰りの電車で、ラジオ聴けるの、すごい楽しみだもん。

講義録:それは目が疲れてるからですか？

米村:もう読むのはなんかもう、しばらく休みたいみたいな。

講義録:疲れているのは目なんですか？僕は、それ、目じゃなくて、考えるのやだなっとかあると思うんですけど。

米村:でも、音楽聴いてるわけじゃなくて、セッション22というTBSラジオのポッドキャストなど時事ネタなどが多くて、知識欲はあるんだけど、読むのはもう疲れたなという感じで。でも、耳からなら、立ってようが、歩いてようが、暗闇だろうが、なんだろうが、家の玄関の扉開けるまで聞いてられるから、帰り、オフィスのエレベーター乗ったあたりから、こうやって。

バクテリア:質問なんですけど、今のストラテジーだったら、そもそもターゲットは、読書好きな人とか、本に抵抗がない人だとおもったんですけど、それ以外の人だと、あまりこう、読書するひとがいなくなるかなっていう、さびしさみたいなものを感じたんですけど、どう思いますか。

米村:一番メインのターゲットの人は、読書好きな人だろうね。ラインやなんだで、読書好きな人に、耳で聴ける読書っていうのはサブだろうね。メインは、読書好きな人で、そういう時くらいは目を休めようっていう。インサイトとしては強いと思う。

講義録:総長とか、脇毛なめとか、このインサイトで使おうって思いますか？仮に今のが、ストラテジーで広告が出たときに、使おうかなって思いますか？

総長:本を読む時くらい目を休めよう。うん、気になると思う。

講義録:そうなんだ。

バクテリア:私は、違和感を持ってて、疲れてる時って、ラフなもの聞くんじゃないかなって、本読む時ってエネルギー使うと思うので、疲れてる時は音楽聞くとか、軽いニュースを聞くとか、ラジオを聞くとかはわかるんですけど、耳で本を読んでみようかなっていうのは、はてさてほんとに使うのかなっていう気が。

米村:さっきの話じゃないけど、本が好きな人は、やっぱり読書したいんだよね。だけど、目は疲れるっていう。だからそこは、知識欲と、別なんじゃないかな。

バクテリア:本が超好きなひとがターゲットっていうことですね。あと、もうひとつ思ったのが、結局、本探すのは携帯なので、それよりかは、本を開いた方が疲れないかなっていうのは思いました。

米村:それは屁理屈だね。

バクテリア:そうなんですよ。あんまり言いたくなかったんですけど。

米村:コンタクトの人とか、ドライアイになったり、今すごく売れてるでしょ？目薬とか。

裏口:微妙な違いだと思うんですけど、目が疲れてるから、本を読んでなかったっていうのが、マイナスをゼロにしているんじゃないですかね。

米村:うーん、マイナスをゼロにしてる部分と、ゼロをプラスにする、両方またがっているように思うけどね。そうすることで、読める、例えば、総長がもっと本読みたいと思っていたとして、時間の限界があつてね、今以上は読めないみたいなことがあるときに。道を歩いている時でも、要は、今まで本を読めない時間でも、耳から入れることで読める時間が増えたら、そこが、いまままで以上に読める量が増えるってことだからゼロからプラスだと思う。あと副次的に、活字を読むのが苦手な人が、耳から入ってきたらなんか、読みやすいついていうのも、あると思うんだよね。日本昔ばなしとかさ、昔の NHK のおとぎの部屋とか、本を読まない子供がああいうのが好きだったりする、ああいうのさ、能動的にはいってこなくても、紹介できるっていうのもあるかもしれないし。どうかな。3 倍速、1 万冊を持ち歩く、月額 1500 円、チャレンジ・・・、まあそれと、目の不自由な人。



本やオーディオエンターテインメントをアプリで自由に聴く
アマゾンの新しいサービス

- ターゲット
ビジネパーソン、大学生
- ターゲットインサイト
アウトプットのためにもっと本を読みたいが時間がない。
- 競合
速読術（教室、How-to本）
- USP
身につけなくても3倍速で読破できる。
- プロポジション
超高速読書を可能にするAudibleで、ビジネス書から小説まで情報を思いのままにインプットしよう。

おしめり

米村クラス Audible C案

総長

総長

ターゲット	読書好きな人 (本がいつもカバンに入っている)
インサイト	気分によって、読む本を変えたいが、何冊も本を持ち歩くのは重たくて大変。移動中(歩いているとき)も読みたい。
USP	オーディオブックなので、持ち歩き簡単で耳から読書できる。1万タイトル収録。
競合	FEBEなどのオーディオブック、kindle (FEBEは本単位で購入型/audibleは月額型)
プロポジション	あなたのスマホを本棚に。 月額1500円で1万冊を持ち歩こう。

課題: Audible

結婚相談所

ターゲット	ビジネスパーソン、学生。
インサイト	自分の教養を高めたい。何かを新しく学びたい。何かにチャレンジしたい。
USP	聴くだけなので、いつ、どんなところでも無理なく、読書できる。 月1500円の定額制なので、大量の読書に向いている。
Proposition	聴書マラソンで、1年間に100冊の読書を目指しませんか。 (1週間で2冊。1500×12=18000円で100冊分。1冊あたり180円)
競合製品	ユーキャン等の習い事。

B案

競合: 電子書籍

ターゲット: 老眼・目の不自由な人。

5

インサイト: 目が悪くて、細かい字とよむのが
苦手で辛いから、本は読まない。

USP: 目で使わず、耳で内容を聴く。

プロポジション: 目が悪くても、読書体験
を堪能できる。

A案⑥

ターゲット: 通勤中のビジネスマン

インサイト: 通勤時間でも本を語り始めたいという欲求がある。様々な要因により、抑圧している。

競合: 本

USP: ハンドフリー

プロポジション: 聴きながらストレスフリーで通勤時間に楽しめる。

⑥

裏口: 3番の(結婚相談所の)プロポジションのコスパってところに行くと、kindleの方で、定額制をはじめたとしたら、耳で聞かせるというところが USP じゃなくなるのかなって。

米村: そらそうだよ。今のところ、一番安いってだけであって。

我慢汁: あの、ブックライブっていうサービスがあって、9000冊無料で読めたりするんですよ。ラインナップも古典なんで、オーディブルと重なるところもあって、値段っていうところで、Audible と比べちゃうと、陳腐化しちゃうと思うんですよ。

米村: 本質とは、違うかもね。結婚相談所も別に、だからいいって言ってるわけじゃないんだよ。我慢汁的にはどのへんが。このテーマを出した側としては。

我慢汁: 僕は、前回の、ストラテジーAB出して、なんか素敵に見えないねってなるところからC案出して、その、目が疲れた、は素敵に見えないっていう気はしますね。

米村: 素敵に見えない。

我慢汁:はい。メイン使いにはならないなっていう。その、すごい読書する人っていう、結構、ビジネス書を週に何冊も読む人って、読むのがすごいまいと思うんですよ。その効率の良さで、メインは本で読んで、疲れた時にちょっと読むっていうの、あると思うんですけど、でも、ラインナップ的にいうと大したことないじゃないですか。Audibleって。本当に欲しい本がなかったりするんで。

米村:その一万冊の中には？

我慢汁:はい。ないので、やっぱ、聞かっていうこと自体に価値をもたせて、素敵に見せるっていうようにしないと、厳しいかなという感じもしますね。

米村:だから結論は？

我慢汁:結論、何が残ってるんでしたっけ。

米村:今残ってるのは、3倍速。

我慢汁:3倍速。それもなんかちがうな。僕はやっぱり、バクテリアのを。ひねってはいないんですけど。

裏口:僕は自分で考えたんですけど、バクテリアみたいなものになると、A案との違いはどうなってくるのかなって。

我慢汁:A案は、いつでもどこでも「ながら」ができる効率性みたいなのをあげてただけど、バクテリアのは、好きな本がいつでもどこでも読めるっていう、エンターテイメントをいつでもどこでも楽しめるっていう風にしてるから。それでなんか、表現のトーンだいぶ違ってくるかなって、そっちの方が、みんなにとっての商品になると思います。効率よくばんばん何冊も読みたいみたいな人って、ある程度限られてくる部分で。

米村:なんとなく、いつでもどこでもっていったって、どこのこと言ってんだって感じもするんだよね。ほとんどの人が、さっきも言ったように、そんな毎日、昨日と全然違う毎日を生きてる人なんていなくて、みんな毎日ルーティンの生活があって、みんなその中で毎日、時間を見つけて、運動したり、読書したり、運動したり、仕事したりってしてる中で、いつでもどこでもっていう、言い方がどれくらい説得力があるかっていうか。

我慢汁:暗闇の帰り道とか、歩いてる時とか、旅行中とかってプロポジションで広げてるわけですよね。読めるシーンは拡張してるじゃないですか。

バクテリア:私の書いたイメージだと iPod で音楽聞くみたいな感じで、携帯に音楽アプリと読書アプリが入ってて、今日は音楽アプリじゃなくて、読書アプリ、音楽じゃなくて、本を読もうって軽い気持ちで入って欲しいっていうのがあったので、本来なら読書家ではなくてちょっと読書から離れた人って言った方が良かったかなって。私、あまり本読まないのだからそれくらいカジュアルでもいいかなって思ってます。

米村:俺が、ちょっとやっぱり薄く感じるの、音楽が 1000 曲聞けるっていうのは、CD がさって持っていたりとか、非現実だけど、本って、文庫本とかポケットに入れて持ち歩けるから、1 万冊は持ち歩けないけど、基本的には、いつでもどこでもっていう楽しみ方ができるものなので。暗闇とか、読めない場所では確かに広がるんだけど、その伸びしろってそんなに広くないんじゃないかなって。ウォークマンが、初めてでた時ほどの飛躍的な広がりっていうのが弱って感じがするかな。ないとは言わないんだけどね。

講義録:いま聞いて思ったのが、いつでもどこでもっていうよりは、目が使えないときによって限定したほうが、今の流れを汲んでるのかなって。目が疲れてる時、暗闇、いつでもどこでもっていうよりは、目が使えない時っていう方が適切かなと。

米村:目が使えないっていうのも結構、すくないよね。

講義録:今でている中でっていう。目が疲れた時と暗闇。自分が思ってたのは、夜寝る時に電気を消した後とか続きが気になるけど、こう時間はあるとかはあるかな。

米村:それ、俺は 3 分くらいで寝るな。

袋とじ:飛躍的に広げるって考えた時に、結婚相談所のはちょっと意識が高い人達向けというか。だったら、バクテリアとかほげみたいな、音楽と選ぶみたいな入りのほうが広がりがあるんじゃないかと思いました。

米村:うん。ほげは、音楽とってという言い方をしてるんだっけ。

袋とじ:してないですけど、カジュアルにっていう感じだったと思うんですけど。

総長:普段音楽聴いてる人が、急に読書アプリ開くかなって。

袋とじ:私も、最初それ思ってて、前提として本が好きの人かなって思ってたんですけど、でも、選択肢として提案するのも、C案としてはありじゃないかなって。音楽じゃなくて、youtubeじゃなくて、たまには、本使ってみよかなみたいな。

米村:本を読まなくて、音楽を聞いている人は、本読もうってなるのかな。本を読まない理由は、耳から入らないことなのかな。

袋とじ:もう一回いいですか。

米村:だから、本が耳から入る情報に置き換えられれば、音楽を聞いている時間を Audible の時間に変わるんじゃないかっていう仮説だよな?でも音楽を聴いている人が、音楽に費やしている時間が、読書というものが耳から入ってくるっていうことになると置き換わるのかな。ドライブしながら聞いている音楽を小説の朗読の方に変えるかね。

袋とじ:作り手の想定として、それもあるんじゃないかなって、Audible のホームページを見て、思いました。

米村:読書が好きな人は車で出かけなきゃいけないってとき、家を出るまで本を読んでた本を可能であれば車の中でも続きを読みたいじゃない?

でも、普段から音楽が好きな人が、BUMP OF CHICKEN 聞いてた人が聴ける本ができたんだってって、いきなり本を聞くんというモードに変わる感じがあまりしないんだけどね。
ゼロとはいわないけど。

講義録:BUMP OF CHICKEN が書いた本なら、思いそうですけどね。

米村:そうだね。

講義録:ぼくこれちょっと、聞きながらあるなって思ってたんですよ。そういうタレントよりのものをそろえてって、本を読もうみたいな。ちょっとあるかなって思って聞いてました。

米村:でもパイは少ないよね。

講義録:まあ、少ないとは思うんですけど。

米村:ちょっと、赤いものだけ少し。

講義録:結婚相談所のがいって言ったのって、競合がユーキャンだからなんですかね？

命の母:C案として考えた時は、ABCって並べた時ってことなんだけど、今考えてるのは表現にするためにですね。表現するために、A案かB案か、いくつかあるC案かって考えていくと。

米村:C案っていうのは、仮説を増やそうとしていたわけ。いま選んでる段階。

命の母:C案を選ぶってことじゃないですもんね。最初のABを考えた時の、今通勤中のサラリーマンがターゲットになってると思うんですけど、もうひとチームで考えたのは、忙しい、もっと時間を持ちたいけど、持てない人っていうのをターゲットにしているのをA案として出していたと思うんですよね。そう考えた時に、総長がもっと本読みたいなとかいう、気持ちを汲んでくれるものだし、それはなんていうか、24時間しか時間がない中で、本が好きな人の読書の時間を増やすっていう、プラスにするいいアイデアなんじゃないかなっていう気はするんですけど。確かにいまのA案みたいな効率ってなると、わくわく感みたいなのと違うかなって思っちゃうんですけど。

米村:インサイトが、ちょっと違うよね。時間さえあれば、もっと本読みたいのに、みたいな。

バクテリア:この中で一番読書を楽しんでる感があるのは、読書の時くらい目を休めよう、のストラテジーがちゃんと本を読んでいるっていう印象をうけるので。他は本読まなきゃいけないとか。

米村:今のその、⑥のA案って書いてあるけど、A'っていうのもあるかもしれないよね。命の母が言ったように。本当はもっと本読みたいのに。その本読みたいのが時間が足りてない人だったらそういうことだし、もしかしたら目の疲れとかそういうことにインサイトを振ると、⑦みtainなことになるかもしれないしね。

バクテリア:もっと読みたいっていうインサイトだと、もっと広がりがあるかもしれないですね。

米村:これ残したい人いる？図書館を持ち歩こうみtainな。

袋とじ:インサイトは強いなって感じるんですけど。

米村:ああ、気分によって？

袋とじ:一万冊持ち歩こうってとこだけですか？

米村:いや、インサイトでもいいんだけど。一万冊持ち歩こうっていうのが、気分によって読み替えるっていうのになってるかな。

バクテリア:この中で、もっと本を読みたいっていうインサイトを含まれているのはそれですか？

米村:⑥'は、他の案を兼ねるってことだね。(→「本を読む時間がもっとほしい」) この、目の不自由な人って、誰も支持してないね。

バクテリア:ちょっと離れてますね。

米村:3倍速っていうのも、傾向と対策感が強すぎる。ユーキャンは？

バクテリア:ユーキャンの、Audibleの必要性っていうのは、どこにあるんですかね。紙の本でも、100冊チャレンジみたいなのは、できるんじゃないかなって。

米村:コストパフォーマンスが。

バクテリア:さっきの我慢汁の話だと、値段っていうのがって思うと、A'のインサイトの方が、いいんじゃないかなって。

裏口:聞くだけならできるかもって思ったりするんじゃないですかね。

バクテリア:なるほど。

裏口:本好きではないかもしれないですけどね。

総長:本読んでて、100冊目指そうって、思ったことないなって。

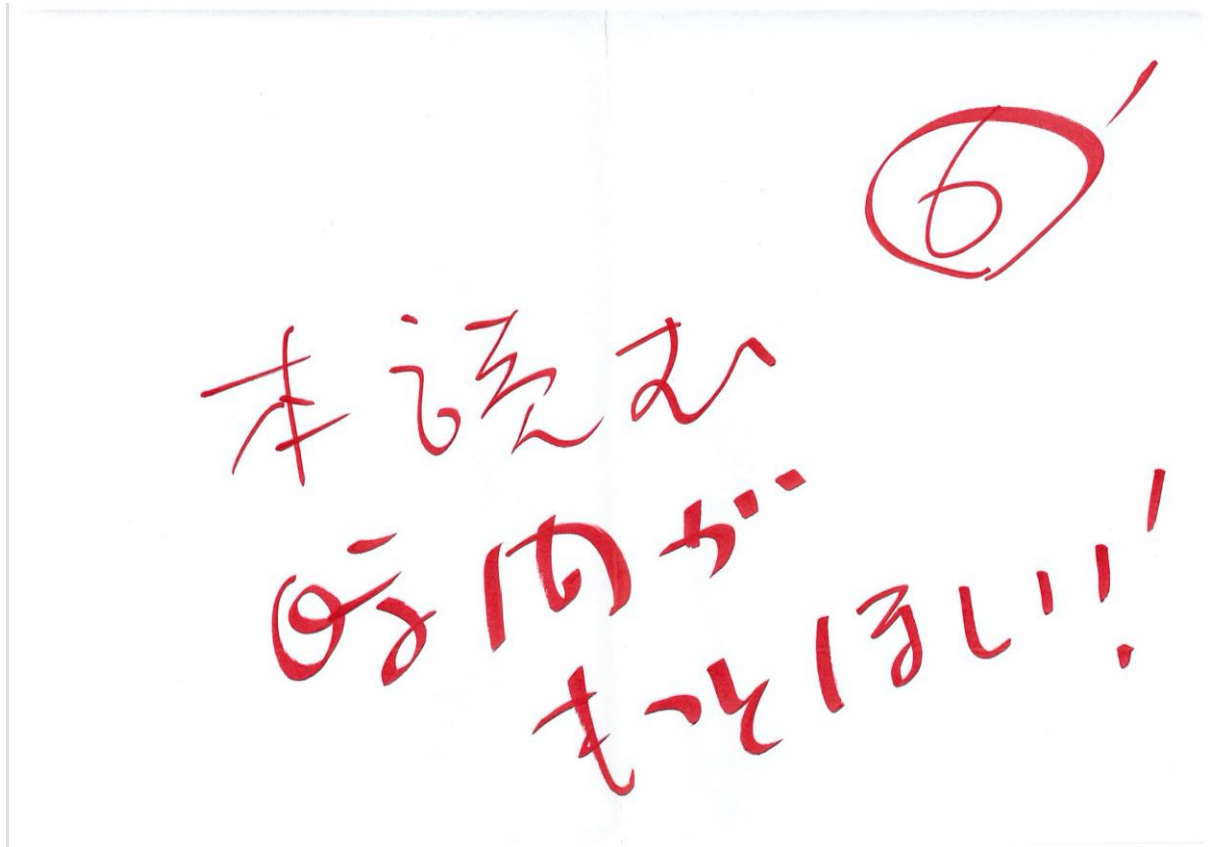
米村:100冊読破しようと思った人に買ってもらうっていうのも、なかなかニッチなマーケットだと思うけどね。

バクテリア:目標持ってる人ほど、3日坊主で終わりそうですよね。結婚相談所の案は、やめた方がいいんじゃないですかね。

米村:バクテリアが決めました。

バクテリア:もう、新橋に向かって土下座ですよ。笑

米村:やっぱり、インサイトは本を読みたい人なんじゃないの。いつでもどこでも読みたいって繋がるのは、そう思うとなんか繋がる感じするんだけど。いつでもどこでも本が読めるからいいというのは、なんかあんまり。



我慢汁:あの、読書の時くらい目を休めようっていうのは、さっき、C案でもっと素敵な案に見えるっていうのは違うと思ったんですけど、その読者の価値観を変えるってインパクトはあると思うんですよね。その、読書の時くらい目を休めようって、何言ってんだって感じるじゃないですか。

米村:表現に入ってるよね。

我慢汁:そうです。だから、インパクトを変えるって意味では、あるので、可能性としてはあると思ひまして。老眼の人とかもそれで振り向くと思うし。それで狭くもないし。だからいま⑥と⑦ですかね。どちらかで、いいような気がします。

~~読書の時~~
目と休め持^た、
⑦

米村:総長どう?選べるなら。

総長:1万冊持ち歩くって満足感はないんですけど、普段3冊カバンに入ってるから、気分によって読み分けたいというのがあります。でも読書の時って読まなきゃみたい感じる人が多い中で、⑦の「読書の時くらい目を休めよう」って、目を休めていいんだ、目を使わないでいいんだっていうのは、あるかなって思いました。

米村:今日は2つに絞りたいと思ってる。

脇毛なめ:総長に質問なんですけど、ちょっとずれるかもしれないけど、前ディスカッションした時に、旅行の時に、Audibleでその地に触れることができるみたいな。

米村:高知を旅しながら、紀行文を読むみたいな?

脇毛なめ:そういうのを提出した背景には、みんなのエピソードとか経験談を踏まえてたんですけど。例えば、僕だったら、初恋に敗れた時に、「木綿のハンカチーフ」を聞いて、浸ったっていう。カンボジア行った時に、カンボジアにまつわる小説を読みながら旅し他っていうのがあって。

米村:カンボジアの子にフラれたの？

脇毛なめ:それはまた別ですよ、別ですけど。中1の時に振られて木綿のハンカチーフ、聴いてたんですけど。

米村:木綿のハンカチーフって、リアルタイムじゃないよね？

脇毛なめ:そうなんですけど、ちゃんと太田裕美バージョンなんです。この気分によって読み替えられますよってというのは、そういうものなのか、それとも、自分の心情に合わすことが1万冊あるからできますよっていうものなんですか？

総長:このストラテジー考えた時は、そうじゃなくて、朝は、頭働くからビジネス書読んで、帰りは疲れてるから星の王子さま聞き流して帰るみたいな、そういう気分。なんか、別に自分の心情に合わせてまで、心情なんだけど、若干⑦と近いっちゃ近いけど、遠いっちゃ遠いみたいな。なんか、自分の心情と合わせて選びたいから、失恋に合わせてこれを選ぶのとは若干・・・

脇毛なめ:違う？朝昼晩変えたいみたいな。

米村:音楽版でいう、jukebox を持ち歩くみたいな感じでしょ。

脇毛なめ:そうですね。

米村:そんなロマンチックなことだけで言っていないと思うんだよね。じゃ、⑥と⑦でいい？これ、ある意味、インサイトだけ書いてあるようなものなので、ターゲットは読書が好きな人がメインになってくると思う。⑦は、読書が好きだけど、目が疲れてる。目を休めたいだな、インサイト。このふたつでストラテジーをもういっかいちょっと、各自整理して、表現を10個。ラストスパートがかかってきます。

袋とじ:締め切りは、25日の朝までで？

米村:そうそうそう。

疲労骨折:ストラテジーは一つづつ。

米村:うん、なので10個と10個で、計20個。

裏口:補完というか、ストラテジーのほかは各々で？

米村:各々で。場所に関してはまたアナウンスします。時間に関して、みんな認識がバラバラなのか、スケジュールがわかってて早めに送ってんのかわからないけど、金曜日くらいから送ってくれた人がいたけど、月曜日の朝5時でいいよ。じゃ、そういうことで今日は以上です。

一同:ありがとうございました。

以上